



富士重工業株式会社

代表取締役社長

森 郁夫

2009年1月16日

2008年暦年 主要市場販売状況(小売)

	2007年実績(台)	2008年実績(台)	前年比
米国	187,208	187,699	100.3%
カナダ	16,504	19,892	120.5%
欧州 (主要9市場)	38,630	38,640	100.0%
ロシア	15,803	22,006	139.3%
豪州	38,445	38,492	100.1%
中国	9,231	19,010	205.9%
日本	225,818	206,743	91.6%
(登録車)	84,828	85,050	100.3%
(軽自動車)	140,990	121,693	86.3%

欧州主要9市場;

ドイツ、スイス、イギリス、ベネルクス、イタリア、ギリシャ、フランス、スペイン、スウェーデン

製作所生産調整

市場及び為替の急激な変化による
日本自動車需要の**縮小加速**
グローバルな自動車需要の**急激な減退**

対応策

国内で、日本向け1万台、輸出3万台
計4万台の計画追加下方修正

国内で、日本向け6千台、輸出4千台
計1万台の計画追加下方修正

10月末

世界生産
629千台/年

11月末

世界生産
589千台/年

12月末

世界生産
579千台/年

国内製作所
対応策

全生産ラインで
操業ピッチタイムを落とし、
操業体制を縮小

本工場(軽)で2直から1直へ
全工場で1日稼働休止
操業体制を更に縮小

1月以降、生産所要人員 800名
12月契約満了の期間従業員、派遣社員の
契約更新を見送り、対応

2月以降、生産所要人員 300名
1月契約満了の期間従業員の
契約更新を見送り、対応



通期：連結業績計画修正

(億円)

	2008年3月期 実績	2009年3月期 2Q時計画(a)	2009年3月期 計画(b)	増減 (b-a)
売上高	15,723	16,000	14,400	1,600
国内	5,440	5,600	5,200	400
海外	10,284	10,400	9,200	1,200
営業利益/損失	457	230	90	320
経常利益/損失	454	200	90	290
当期純利益/損失	185	100	190	290
単独売上レート	116円/\$	103円/\$	101円/\$	2円/\$



通期：連結完成車販売台数修正

(千台)

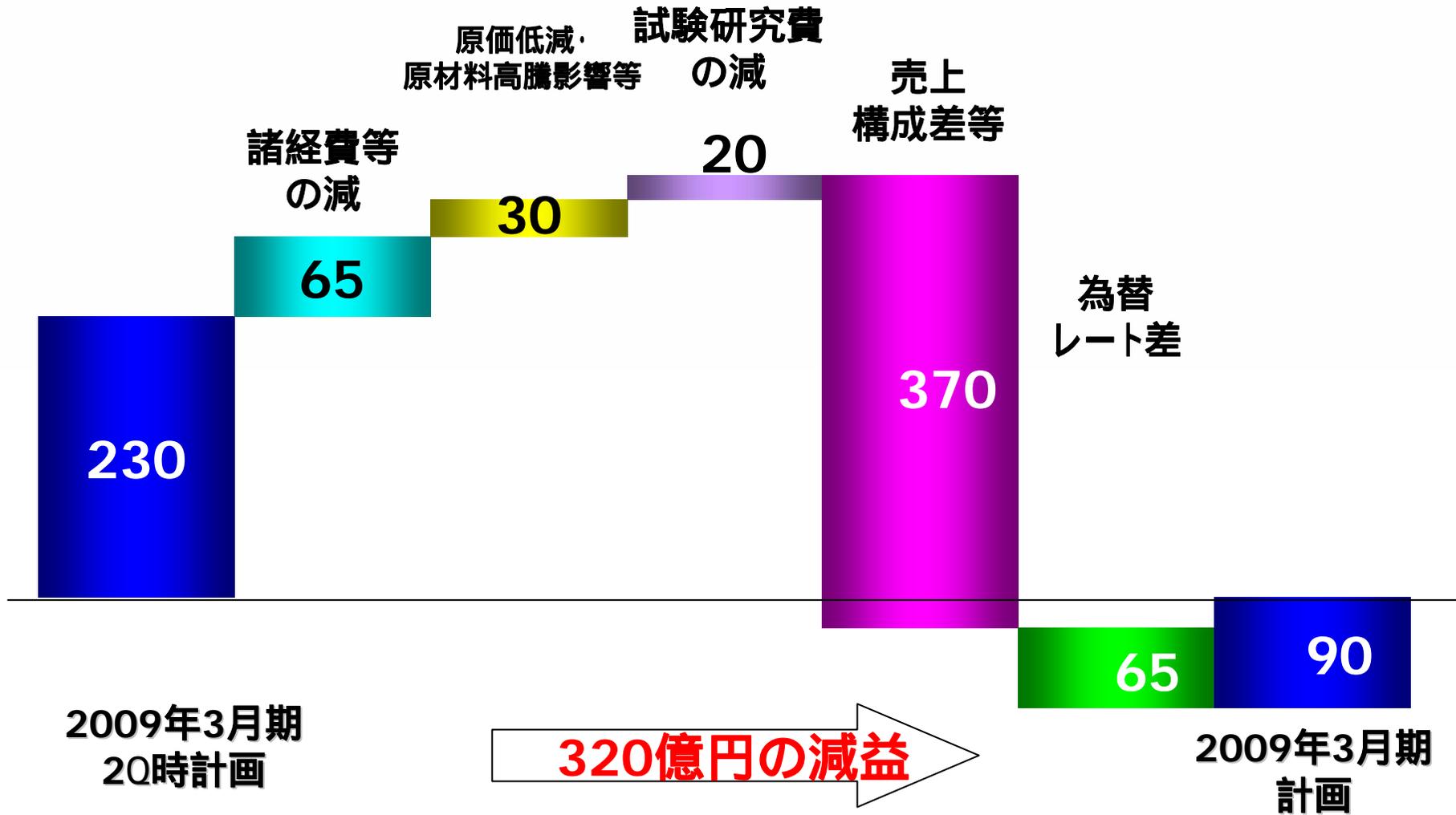
	2008年3月期 実績	2009年3月期 2Q時計画 (a)	2009年3月期 計画 (b)	増減 (b-a)
登録車	78.1	83.4	70.6	12.9
軽自動車	130.6	117.6	108.5	9.2
国内合計	208.7	201.0	179.0	22.0
北米	210.3	212.1	207.1	5.0
欧州	86.0	97.1	73.4	23.7
豪州	40.2	39.2	37.3	1.9
その他	51.4	66.2	57.9	8.3
海外合計	388.0	414.6	375.7	38.9
合計	596.7	615.7	554.8	60.9

(アメリカ、カナダは1～12月売上)



2Q時計画 VS 今回計画 ： 営業利益増減要因

(億円)



“出を制す”の費用削減の推進

- ・投資計画の見直し 20%以上の削減検討
- ・更なる一般管理費・販売費の削減
- ・人件費等の見直し
 - 取締役賞与ゼロ
 - 取締役・執行役員報酬10%削減
 - 管理職の賃金見直し検討 等

WIN - WINの関係を維持

- ・ダイハツから小型車C00のOEM供給

2008年11月13日にDEX発売

- ・ダイハツからの軽自動車のOEM

今年後半からスタート

- ・トヨタから小型車OEM供給

計画に変更なし

- ・共同開発車(小型FRスポーツカー)

基本計画に変更なし

環境性能・動力性能の向上をはかる

投資計画の練り直しにより、新工場建設を既存工場リニューアルに変更。設備は順次、最新化



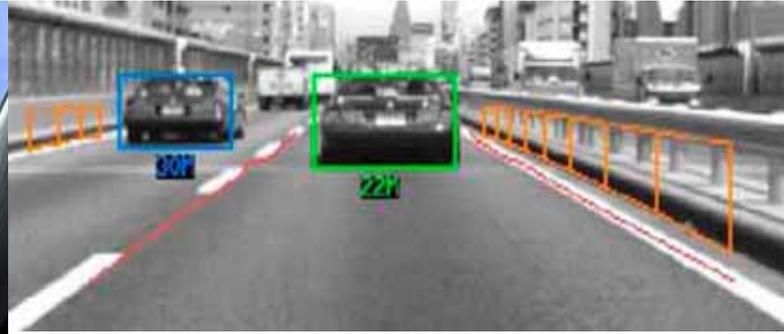
SUBARU Plug-in STELLA



- 2009年夏 デリバリースタート
- 首都圏を中心に100台以上 / 年間



安全技術



SUBARU ASV-4

- ・中期経営計画の方向性の確認

スバルの存在価値

一層のスピード、柔軟性を持って推進

- ・急激な環境変化に対応する構造改革に着手

原価構造、固定費、為替への抵抗力、

「危機こそチャンス」新興国での拡販、

販売・物流体制の見直し 等



SUBARU